

# 平成 30 年度

## 一般入学試験 I 期

# 必須科目

試験時間 9 : 30 ~ 11 : 30 (120 分)

- |       |        |
|-------|--------|
| 1. 国語 | 14 ページ |
| 2. 英語 | 6 ページ  |

### 注意事項

- ①試験開始の指示があるまで、問題冊子の中を見ないこと。
- ②問題冊子の印刷不鮮明やページの落丁・乱丁等があった場合は、手を高く挙げて監督者に知らせること。
- ③試験終了の指示があったら、直ちに解答をやめること。
- ④試験終了後、問題冊子は持ち帰ることができます。

健康科学大学  
看護学部看護学科

# 1. 国語

※国語の問題は、全14ページです。

## 国語

1

次の文章を読んで、後の問い（問1～6）に答えよ。

現在、人類が陥っている深刻な危機は、地球が無限に大きいと想定してつくられたA近代文明によって、地球の大きさが実際上小さくなってしまったという矛盾した現実があるのにもかかわらず、その近代文明からなかなか離れることができない、ということによって生まれています。その典型がCO<sub>2</sub>の急激な増加によっておきている地球の温暖化現象ですが、考えてみると、現在の政治制度も、経済制度も、科学技術も、その多くは「無限に大きな地球」を前提にして——それ故に個人の自由と競争を前提にして——つくられているものです。言い換えると、近代思想には、生きものの居場所としての地球そのものが、存在していません。ですから「無限に大きな地球」が成り立たなくなると同時に、近代社会の基盤となる制度そのものに、共存在（注1）に関係した矛盾が生まれて、問題がいつせいに吹き出してきたのです。その問題の原因をたどっていくと、以下に説明する人間と地球の関係の主客分離という捉え方に基づきます。そのためにもはや、社会基盤の整備と充実を考えるだけで足りる時代ではなくなっているのです。

科学の理論は、観察をする人間（主体）と、その観察の対象（客体）となっている現象の生き（注2）が完全に分離されていること——主客分離——を前提にしてつくられています。もしも主客が完全に分かれていなければ、観察している客体の状態に主体の存在が影響を与えるために、客体を客観的に観察しているという保証ができなくなることから、主客分離がどうしても必要なのです。そのこともあって、「地球は人間の存在から完全に分離している」という前提で——分かりやすく言えば、「人間は地球ではない」ということを前提にして——、人間は自分自身の居場所である地球を科学的に研究し、様々な提案もし、また実際大規模な工事を続けて、その構造を人間中心的に変えてきました。このことは、「自分は家族ではない」と仮定しながら自分の家族を観察して、そのトラブルに多かれ少なかれかわつている自分自身のことには触れないで、家庭のトラブルとその対策をレポートしていることに相当しますから、不完全なことしかできません。また時には、誤った（ア）ハウシンを打ち出してしまう可能性すらあります。地球の大きさが、人間の存在に対してもう無限に大きくはない現状では、主客分離という科学的方法と「個人の自由」がそもそも深刻な誤りを含んでしまう可能性があります。

以上から分かるように、地球における人間の存在ばかりでなく、その存在を生物的に支えている多様な生きものとの共存在の持続可能性を研究するときには、もう、これまでの近代科学の方法は一般的には使えません。生命科学の研究がさらに進んで、仮に地球を分子レベルから明らかにすることができたとしても、生命科学が近代科学の論理に縛られているかぎり、地球における生きものの共存在の持続を可能にするために、人間がどう生きるべきかを具体的に明らかにすることはできないでしょう。それは、生きものの共存在を考えるには、地球を主客分離して考えている張本人である人間自身の存在のあり方が最も重要な問題として含まれていなければならないはずなのに、主客分離という近代科学の方法が、その問題を正面から取り上げることが排除して

しまうからです。B家庭のことはその家族にならなければ、本当には分かりません。居場所における共存在は、それを知らうとする人間自身が、その共存在者の一人となって、居場所を主客に分離しないで、「自分ごと」としてその内側から見なければ見えてこないものです。つまり、その居場所における自分自身を見ることができなければ、本当には見えてこないものなのです。

私たちが解くべき問題とは何かを、振り返ってみましょう。〈いのち〉の居場所である地球——重層的に捉えるならば、その地球を地域の自然に映している居場所としての地域社会——と、人間の間を切り離して、主客分離的に捉えてきた科学によってつくられた近代文明。その急激な発展と広範な（イ）シントウによって、人間は〈いのち〉の居場所としての地球や地域社会を失うと同時に、その居場所の〈いのち〉に媒介されて成り立っていた互いの〈いのち〉のつながりを失っているのです。その影響はまことに大きく、たとえば、前者は自然の荒廃、急激な気候の変化による災害の増加、そして全国的に広く見られる地方の過疎化などとして、後者は無慈悲な殺人の増加、子どもや高齢者などの弱者が安心して暮らしていくことが難しい社会や、（ウ）リフジンないじめの増加などの形で、私たちの身の回りにも広く現れています。しかし困ったことに、その原因となっている科学に、人間はますます深く依存していき、それを捨てることはできません。そこでこの矛盾を、どう解決するか、これが問題なのです。将来の食料問題は地球における共存在問題であることを付言しておきます。

地球に生まれている深刻な危機は、地球の温暖化や生態系の消滅をはじめ、もう待つことができないうものばかりですが、そのどれも、最終的な解決には、「私は地球であり、地球は私である」と、人間が新しい自覚をもつことが必要になります。そのためにいま最も必要とされるのは、人間の価値観を含めてそのCライフスタイルに根本的な変化をもたらす新しい文明（「地球文明」と仮称しておきます）の創造です。しかし近代文明に強く縛られ、経済成長にとらわれ過ぎているためか、国際社会はやつと重い腰をあげながらも主客分離的に対応することに終始しています。しかし、地球がもう回復しようがないほどに（エ）サクシユされ切った後に、経済とは地球と主客非分離の形で成り立つ人間の活動であったことに気づき、「私は地球であったし、地球は私であった」と、深く後悔しても、もう遅すぎるでしょう。

科学は人間の現代生活にあまりにも重要な役割を果たしているために、人間はもはやそこから離れることができず、しかもその一方で、科学によっては原理的に研究できない地球における生きものの共存在の——人間や様々な生きものを含めた地球の存在の——持続を可能にする方法を急いで発見しなければならないという、矛盾した現実。近代文明の担い手である科学がつくり出してしまった、この深刻な矛盾した現実を、私たちはどのように解決していけばよいのでしょうか。様々な考え方があっても知れませんが、地球の住民である人びとが、文化や宗教の違いを超えて、この現実を受け入れることが必要であることを思うと、実際的には次の方法しかないように、私には思われます。それは、生命科学とは異なる出発点から出発して、地球における人間を含めた生きものの共存在を研究する「Dもう一つの科学」を急いでつくるということです。そのもう一つの科学は、近代科学という「現象の科学」に対して、人間（自分）自身を含める生きものの共存在を明らかにしていく、「存在の科学」でなければなりません。

この「存在の科学」は、「現象」から出発していく「形而下学（注3）」的な近代科学に対して、

「生きていく」という生きものの「存在」から出発していく「地球の形而上学（注4）」に相当する「いのちの科学」です。ここでは、学問的に（オ）ゲンミツな分類にしたがって、形而上学と呼んでいるわけではありません。重要なことは、互いに排除し合う民族意識や宗教的宗派に代わって、「もう一つの科学」が、すべての人びとが受け入れることができる、「地球の形而上学」としての役割を担っていくことを考えていきたい、ということなのです。言うまでもありませんが、「地球の形而上学」としての「もう一つの科学」を研究したり考えたりすることは、民族意識や宗教的宗派を否定するものではありません。それはあくまでも「もう一つの科学」であり、したがって、民族意識や宗教的宗派が異なっても共有できるものです。実際、世界における人びとの生活をはじめ、文化、政治、経済などは、地球の形而上学としての「もう一つの科学」の出現を待っているのではないのでしょうか。

（清水 博『いのちの自己組織——共に生きていく原理に向かって』より抜粋）

#### 注

（注1）共存在 —— 多様な生きものが共にある状態。

（注2）活き —— 生きていること（being alive）。

（注3）形而下学 —— 自然の仕組みなどについて研究する学問。自然科学。

（注4）形而上学 —— 「存在」とは何かなど、物事の根本原理を研究する学問。

問1 傍線部(ア)～(オ)の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。解答番号は  ～ 。

(ア) ホウシ**ン**

- ① 審議会が最終的なトウシ**ン**を出す
- ② 事件のカクシ**ン**に触れる自白をする
- ③ 公害病患者としてシ**ン**サンをなめる
- ④ 記事の内容はシ**ン**シヨウボウダイである
- ⑤ 相手の意向をダシ**ン**する

(イ) シ**ン**トウ

- ① 名演奏にトウス**イ**する
- ② 物価がコウトウ**ス**
- ③ 前例をトウシユウ**ス**
- ④ 路面がトウケツ**ス**
- ⑤ トウテツした理論を展開する

(ウ) リフシ**ン**

- ① 台風がシ**ン**ダイな被害を引き起こす
- ② 難民の保護にシ**ン**リヨクする
- ③ 医はシ**ン**ジュツだと言われる
- ④ 内閣をタイシ**ン**に追い込む
- ⑤ 裁判がシ**ン**ソクに行われる

(エ) サクシ**ユ**

- ① 感染症予防のワクチ**ン**をセツシユ**ス**
- ② シユギヨクの短編を収めた本を読む
- ③ 日本人はシ**ン**シユの気性に富む
- ④ あくまで自分の陣地をコシユ**ス**
- ⑤ 銃を携えて森へシユリヨウ**ニ**行く

(オ) ゲ**ン**ミツ

- ① 祖父はキ**ン**ゲ**ン**な教育者である
- ② 戦場のゲ**ン**エイにおびえる
- ③ 人間の欲望にはサイ**ゲ**ンがない
- ④ 泣く子のキ**ゲ**ンを取る
- ⑤ 恐竜の骨格をフク**ゲ**ンする

問2 傍線部A「近代文明」とあるが、それはどのように成立したか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 無限大の地球を客体として観察することが近代科学の使命とされたために、科学技術の発展が、人間の生活を向上させるという人間中心な目的から分離されるようになったことにより成立した。
- ② 無限大の力を秘めた地球の重圧から逃れるために、地球を人間による主体的な操作が可能で有限な客体と想定し、地球を人間が生きる上でかけがえのない居場所へと改変することにより成立した。
- ③ 本来は主体として想定しなければならない人間を、客体である無限大の地球の一部として捉えることで、地球がもたらす様々な恩恵への依存心が強まり、人間が主体性を失ったことにより成立した。
- ④ 無限大と捉えられた地球を客体とし、主体である人間から分離することによって発展してきた近代の科学と技術を駆使して、地球の構造を人間にとって都合のよいように改変することにより成立した。
- ⑤ 人間の生活を向上させるために、社会基盤の整備や充実を図るのではなく、無限大と捉えられた地球を客体とし、地球の構造を人間中心的に改変することにもつばら力を注ぐことにより成立した。

問3 傍線部B「家庭のことはその家族にならなければ、本当には分かりません」とあるが、その理由の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 家族以外の人間がその家庭のことを考える場合には、その家庭をあくまで客体として扱うために、公平かつ客観的な判断を下すことができないから。
- ② 家族以外の人間がその家庭のことを考える場合には、その家族の一員として生きているという当事者としての切実な意識が欠落してしまうから。
- ③ 家族以外の人間がその家庭のことを考える場合には、その家庭の問題を「自分ごと」として見ないので、問題解決のための提案がまったくできないから。
- ④ 家族以外の人間がその家庭のことを考える場合には、その家庭の問題に、自分自身が抱えている家庭の問題を投影して内面的に共感してしまうから。
- ⑤ 家族以外の人間がその家庭のことを考える場合には、家族が秘密にしたい情報を入手することが不可能なので、実像とは程遠い家庭を想定してしまうから。

問4 傍線部C「ライフスタイルに根本的な変化をもたらす新しい文明」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① すべての人が「私は地球であったし、地球は私であった」と思えるような、人間の尊厳に立脚した文明。
- ② これまでの科学や技術の成果に頼ることを一切やめて、人間と地球の生態系との共生を最優先する文明。
- ③ 人間の活動と地球の存在とが主客非分離の関係にあることを、人々が十分に自覚した上で成立する文明。
- ④ 一国の経済成長にとらわれることなく、国際社会が足並みをそろえて経済成長を実現できるような文明。
- ⑤ 小さくなった有限の地球を、再び無限大に拡大することによって、地球を襲う深刻な危機に対処する文明。

問5 傍線部D「もう一つの科学」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 人間を含む生きもの一般を共に生命ある存在として捉え、地球における生物共同体を持続させる可能性を人類共通の課題として追求する科学。
- ② 主客分離を前提に現象のメカニズムの説明に終始する近代科学とは異なり、主客未分の経験において生命の本質を直観的に把握するような科学。
- ③ 生命科学と同じ出発点から出発しながらも、地球における人間を含めた生きものすべてが共に存在していくことの意義を研究する科学。
- ④ <いのち>のあるものすべてに対する「生命への畏敬」を倫理的な基盤としつつ、人間を含む生命体を何ひとつ傷つけないようにする科学。
- ⑤ 従来の科学では原理的に解明できない生命という現象を、数千年の歴史を有する哲学と宗教の遺産を中核にすえながら解明していく科学。

問6 本文の内容と合致する記述を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 10。

- ① 近代文明の担い手となった科学は、主客を分離するという誤りを犯したことが明白となった現在、別の種類の科学と全面的に交代すべきである。
- ② 生命科学とは、人間の存在を生命体として支えている多様な生きものが、共存在として持続できる可能性を研究する学問にはかならない。
- ③ 地球の大きさが、もはや人間に対して無限大とはいえない現状のもとでは、自由な個人の競争を通じて地球規模の危機に対処すべきである。
- ④ 生態系の破壊などの人類が陥っている深刻な危機を解決するためには、すべての人が民族意識や宗教的宗派へのこだわりを捨てなければならない。
- ⑤ 現在の人間は、〈いのち〉の居場所としての地球や地域社会において、人間を含む多様な生きもの同士の〈いのち〉のつながりを失っている。

2

次の文章はPhaの随筆『持たない幸福論』の一節である。これを読んで、後の問い（問1）に答えよ。

昔の社会ではみんなほとんど農民だったけれど、近代に産業や経済が発達して都市に人口が集中し、主要な産業が第一次産業（農業、漁業、林業）から第二次産業（工業）と第三次産業（サービス業）に移り変わって、大多数の人が都市に住んで会社勤めをして会社からお金をもらって生活をするような社会になった。それは、資本主義や市場経済が一般的なものになって、要は「お金があれば大体なんでもできるような社会になった」ということだ。

それは単に物質的に豊かになったというだけではなくて、人の人生をイエヤマラといった（ア）しがらみから解放してくれるものでもあった。昔は自給自足で生活していたからお金はいらなかったといっても、それはイエヤマラという共同体の中で支え合っていたからなんとかあったのであって、その決められた場所から外れて生きるのはかなり難しかった。今は違う。今はお金さえあればどこに行きたってそれなりに生きていける。W お金というものは人間にそういう流動性や自由を与えてくれた。

その代わり、昔のイエヤマラのように「不自由だけどそれに従っていればなんとかメシは食える仕組み」が弱くなったので、生きるためには働き続けてお金を稼ぎ続けなければいけないようになった。また、お金というのは家族や隣人のように困ったときに融通を利かせてくれたり精神的な支えを与えてくれるものではない。人間の感情としてはお金だけではやっぱりなんか寂しさが出てくるものだし、お金以外の繋がりがやっぱり必要とされているということは変わらない。

あと、お金というものが大量に動いて経済の規模が大きくなると、どんどん個人の生活の実感とはかけ離れていくものだ。一つの村で自給自足をしていたり近所のいくつかの村と交換をしているような状態だと、この米はどこで採れたもの、この服は誰が作ったもの、というように、自分の生活がどこから来たかという物によって成り立っているのが見えやすい。でも今のように全国規模、世界規模で貿易がされるようになると、自分の生活を支えているものがどこからどうやってやって来たものかがよく分からなくなってしまう。

この現代の「グローバル化した資本主義経済」というものは、世界規模で経済が繋がり合っている仕組みがものすごく複雑になって、一般人には何がどうなっているのかよく分からない。よく分からないままに景気が良くなったり悪くなったり、物価が上がったり下がったり、円が高くなったり安くなったりする、という感じがある。経済学に精通すればある程度理解できるのかもしれないけど、ほとんどの一般人には無理だろう（経済学者でもあんまり分かってないのかもしれない）。今はみんなが「よく分からないものに自分の生活が左右されて振り回される」ということを感じやすい時代に生きている。

経済やお金というものは人間が作り出したものだけど、経済やお金は規模が大きくなるとそれ自体が生き物のように動いてコントロール不能になって、人間を追い回したり追い詰めたりしてしまったりする。その理由の一つは、大量のお金というものは固有のスピードを持っていて（例えば「時間が経つと貯金や借金に金利が付く」とかがその表れだ）、そのスピードは大抵の人間

が生活を自然に送るペースよりも速いからだ。だから、お金がたくさん動くことに関わると人間はいつも急かされるような気分になってしまう。

現代は社会が複雑に発展して物や情報が溢れかえっている上に、お金があれば大体のことはなんでもできる仕組みだから、「お金以外の自分なりの基準や感性や感覚」というのを見失いやすい。現代ではお金と全く（イ）無縁で生きていくことはできないけれど、充実感を持って生きるためにはハイスピードで動いていく社会に自分を全て適応させるのではなくて、お金以外の論理で動く部分も忘れないようにして、自分のペースを保つことが大切だ。そのためのコツとしては「体を動かして何かをする」とか「自分の手を動かして何かを作る」などを、日常的にすることが有効だと感じる。それは、**X** お金とは別の基準となる「自分の感覚や感情」を大切にすることに繋がっているからだ。

「自分のペースを保って暮らす」というのは別の言葉で言い換えれば「時間に振り回されない」ということなんだけど、そもそも時間というのはなんだろうか。お金の次は時間について考えてみたい。

時間とお金は似たような性質を持っている。そもそも山で畑をやっている人と海で漁をしている人と都市で商売をしている人では過ごしている時間は全く違う。だけど、それぞれの地域が交易などで繋がって連動して動くようになってくると、共通した時間の基準を定める必要が出てきて、時計や暦というものが生まれた。

でも、人間の感じる時間というものは、全ての人にいつも同じように流れているものではなくて、本当はすごく多様なものだ。Aさんの感じる時間の流れ方とBさんの感じる時間の流れ方は違うものだし、同じ一人の人間の中でも、仕事をしているときとぼんやりしているときと説教されているときとセックスしているときでは同じ一時間でも全く感じ方は違う。でも、そんな風にYさまざまな色や味が付いたそれぞれの時間を、抽象的で（ウ）無味乾燥な同じ「一時間」として数えるのが、時計や標準時という共通の基準だ。

共通の時間の基準を揃えるのは、多くの人や多くの地域が連動して仕事をしたりするためには必要なことだ。それは、多くの人や多くの地域と取引をするためにお金という共通の価値基準が必要になったのと同じ構造だ。だけど時計やカレンダーばかり見て（II）共通化された時間ばかり意識して、自分が本来持っているはずの時間の流れ方を見失ってしまうと、「時間に追われる」という感覚から抜け出せなくなってしまう。

本来時間というのは人間を追いかけたりするものではなくて、それぞれの人が何かをするときに持っているそれぞれのペースのことだ。人は幸せや充実感を感じるとき、「時間を忘れるようだ」と思う。人が幸せや充実感の中に没入しているときには、時計の刻む標準的な時間で動くのではなくて、完全に自分自身の固有の時間で動いているからだ。

本屋でビジネス書の棚を見ると「時間を無駄にしないために効率的に時間を使う時間術！」とかそういう本がいっぱいある。そういうのもある程度は必要だと思うけど、あまりやりすぎると良くないと思う。**Z** 幸せな時間や充実した時間というものは、効率的なんていう概念とは全く別の次元にあるものだ。

時計やカレンダーばかり気にするのではなくて、自分のペース、自分なりの時間の過ごし方を

見失わないようにしましょう。「自分は何によつて時間を忘れるような経験をできるか？」という問題について人生のある段階で考えて探して見つけ出しておけば、その後は時間やお金に追い詰められすぎずに人生を過ごせるんじゃないかと思う。

人間が「お金／時間に追いかける」とか「効率的にお金／時間を使わなければ」とか感じてしまうようになったのは、世界中の経済が複雑に繋がって発展して、資本主義や市場経済がハイスピードで回り続けて世界を豊かにしていることや、個人がお金の力によつてイエやムラのしがらみから抜け出て生き方の自由を得ることができる社会になったことなどと表裏一体のできごとだから、ある程度は仕方ない。

だけど、そんな複雑で忙しい時代だからこそ、お金や時間に振り回されないためには自分なりのペースや価値基準を見失わずに持ち続けることが大切だ。そのためには「感覚や感情を大切にする」というのが有効だと僕は思う。「ごはんが美味しい」とか「散歩が楽しい」とか「夕焼けが美しい」とか、そうした生活の中にある些細な楽しみが人生の充実感の基礎を作っている。それは、お金や時間に追い詰められて社会的に切羽詰まったようなときにも、「人生はそれだけが全てじゃないよな」と一歩引いて落ち着いて物事を考えられるような、個人的な空間を確保することでもある。

社会のスピードにある程度は合わせつつも自分なりのペースを見失わず、お金がもたらす便利さを利用しつつもお金以外の自分なりの価値基準や実感も見失わないようにして、要は両方のいいところをうまく利用しながらうまく生きていけたらいいんじゃないか、と思う。

(文章の一部と本文中の小見出しを省略した。)

問1 傍線部(ア)～(ウ)の表現の本文中の意味内容として最も適切なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は  ～ 。

- (ア) しがらみ
- ① 近所付き合いが密であること
  - ② 関係を絶つことが難しいこと
  - ③ 生活する場所が決められていること
  - ④ 人の絆が良く繋がっていること
  - ⑤ 人間関係の問題が多いこと

- (イ) 無縁
- ① 反抗すること
  - ② 対等であること
  - ③ 関係のないこと
  - ④ 知らないこと
  - ⑤ 遠ざかること

- (ウ) 無味乾燥
- ① 意味のないこと
  - ② 不細工であること
  - ③ 品がないこと
  - ④ バランスを欠くこと
  - ⑤ おもしろみがないこと

問2 傍線部W「お金というものは人間にそういう流動性や自由を与えてくれた」とあるが、その説明として最も適當なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 大多数の人が会社からお金をもらう生活となり、イエやムラという共同体から外れて、どこへ行ってもそれなりの生活ができるようになった。
- ② 大多数の人が会社からお金をもらう生活となり、お金が大量に動く資本主義経済となつて、物質的に豊かな社会へと変わった。
- ③ 大多数の人が会社からお金をもらう生活となり、都市に移り住む人が増えたため、資本主義や市場経済が一般的なものとなった。
- ④ 大多数の人が会社からお金をもらう生活となり、イエやムラの中で自給自足の支え合う生活はなくなり、全国規模の交易が行われるようになった。
- ⑤ 大多数の人が会社からお金をもらう生活となり、イエやムラの人間関係から解放され、自由な気持ちでお金を稼ぐことができるようになった。

問3 傍線部X「お金とは別の基準となる『自分の感覚や感情』を大切にすることに繋がっている」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 規模の大きい経済やお金は人間の自然な生活よりも速いスピードで動き、生き物のよう  
にコントロール不能になって、人間を追い回したり追い詰めたりするので、ハイスピード  
な社会に自分を適応させることが大切である。
- ② 規模の大きい経済やお金は人間の自然な生活よりも速いスピードで動き、物や情報が溢  
れかえる複雑な社会を発展させているので、自分も社会の一部として充実感を持って生活  
をすることが大切である。
- ③ 規模の大きい経済やお金は人間の自然な生活よりも速いスピードで動き、人間にとつて  
は時間が経つと貯金や借金に金利が付くような生活になるので、自分なりの基準でお金を  
管理できるようになることが大切である。
- ④ 規模の大きい経済やお金は人間の自然な生活よりも速いスピードで動き、多くの人間は  
いつも急かされる気分になってしまうため、自分の身体や手を動かして何かをするなどの  
ことを日常的に行い、自分のペースを保つことが大切である。
- ⑤ 規模の大きい経済やお金は人間の自然な生活よりも速いスピードで動き、お金固有のハ  
イスピードで人間を急かすようになるため、自分の身体や手を動かして何かをするなどの  
ことを日常的に行い、心の休息を確保することが大切である。

問4 傍線部Y「さまざまな色や味が付いたそれぞれの時間」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 16。

- ① 多くの人や地域が連動して仕事などをするために共通の時間の基準を揃えているが、AさんとBさんが感じる時間の流れは違ふし、同じ一人の人間の中でも時間の感じ方が違ふこともあるので、それぞれの人間が自分なりに固有の時計やカレンダーを用いて、時間の流れを色や味に例えて楽しんでいるということ。
- ② 多くの人や地域が連動して仕事などをするために共通の時間の基準を揃えているが、山で畑をやっている人と海で漁をやっている人と都市で商売をしている人では、その仕事に必要な忙しさが異なるため、過ごす時間の流れを時計やカレンダーといった共通の時間の基準を見る道具では測りきれないということ。
- ③ 多くの人や地域が連動して仕事などをするために揃えた共通の時間の基準とは別に、人間の感じる時間というものは、全ての人にいつも同じように流れているわけではなく、AさんとBさんが感じる時間の流れは違ふとか、同じ一人の人間の中でも行動の中身によって時間の感じ方は違ふものであるということ。
- ④ 多くの人や地域が連動して仕事などをするために揃えた共通の時間の基準とは別に、人間の感じる時間というものは、同じ一人の人間の中でも行動の中身によって感じ方が違っているため、時間の過ごし方によって感じた違いについて、色や味の種類を用いて区別しているということ。
- ⑤ 多くの人や地域が連動して仕事などをするために揃えた共通の時間の基準とは別に、人間の感じる時間というものは、同じ一人の人間の中でも行動の中身によって感じ方が違っているため、AさんとBさんでは異なる、いろいろな色や味が付いた思い出として時間の流れが記憶されていくこと。

問5 傍線部Z「幸せな時間や充実した時間というものは、効率的なんていう概念とは全く別の次元にあるものだ」とあるが、その理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 人間が幸せや充実感を感じるときは、「時間を忘れるようだ」と思えるような、まるで次元の異なる特別な体験をしなければならないから。
- ② 人間が幸せや充実感を感じるときは、共通化された時間を意識して時計の刻む標準的な時間で動くのではなく、自分自身の固有の時間で動いているから。
- ③ 人間が幸せや充実感を感じるためには、「時間を無駄にしないために効率よく時間を使う時間術！」といったビジネス書を読んでも役に立たないから。
- ④ 人間が幸せや充実感を感じるためには、共通化された時間を刻む時計が指し示す、標準的な時間の流れを無視する必要があるから。
- ⑤ 人間が幸せや充実感を感じるためには、共通化された時間で多くの人や地域と連動することに縛られず、自分だけのペースで動く必要があるから。

問6 この随筆の主題についての説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 筆者は、お金の力が人間に自由を与え、時間の基準が人間に地域の共通化をもたらした結果、人間は自分なりの感覚や感情を体験しながら生活することができなくなり、お金の力や時間の基準を信じることは危険であると主張している。
- ② 筆者は、お金や時間の論理は人間を追い詰める性質を持っているので、お金や時間の論理よりも自分固有の論理を大切にして、自分なりの感覚や感情を得られる生活をより増やすべきであると主張している。
- ③ 筆者は、お金によって人間はイエやムラというしがらみから解放され、時間の基準が共通化できたことで経済が発展しているので、今後もお金の力や時間の基準が社会にもたらす良い影響を誰もが認めていくべきであると主張している。
- ④ 筆者は、お金の力と時間の基準に一定の効果があることを認めつつ、お金や時間に振り回されないようにするために、お金や時間以外の自分なりのペースや価値基準を持ち、お金・時間と自分の両方を上手に活用して生きることが大切であると主張している。
- ⑤ 筆者は、お金の力が持つハイスピードが人間の自然な生活を奪い、効率を優先する時間基準の共通化が人間の幸せを壊しているので、自分は何によって時間を忘れるような経験をできるかという問題に取り組むことが必要であると主張している。

※このページは空白

## 2. 英語

※英語の問題は、全6ページです。

# 英語

1

次の会話（問1～5）の会話を完成させるために、（ ）に入れるのに最も適切なものを下の①～④のうちから一つずつ選べ。

問1 A: How many pizzas are you going to order? 1

B: ( ). How hungry are you?

A: I am really hungry.

C: Me, too.

A: All right. Then we will have two large pizzas.

B: That sounds great!

① It depends

③ It is possible

② Three cokes with pizzas

④ I am going to pay

問2 A: Have you met your girl friend's father? 2

B: Yes, once.

A: ( )?

B: He seems like a nice man.

① What does he like

③ How do you like it

② What does he look like

④ What is he like

問3 A: Here's a present for you from all of us. 3

B: Thanks a lot, but ( ).

A: We wanted to give you something special before you leave Japan.

B: Oh! I am so lucky to have friends like you.

① you should do that

③ I could have done it

② I could have given you one

④ you shouldn't have done that

問4 A: I'm home!

4

B: Hi. How was your day?

A: It was pretty good. I am hungry.

B: What do you want to have?

A: Where is the cake you made yesterday?

B: ( ).

A: Oh, no! I wanted to eat it.

① On the kitchen table

③ Your brother has eaten it all

② We have some cookies

④ I made it in the kitchen

問5 A: ( )?

5

B: Yes, please. It is getting cold here.

A: We shouldn't catch a cold.

B: You are right.

① Can I close the window

③ Shall I close the window

② Would you mind closing the window

④ Will you close the window

2

次の問い（問1～10）の 6 ～ 15 に入れるのに最も適当なものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選べ。

問1 I enjoy travelling to places 6 I used to live.

① how

② at which

③ when

④ where

問2 The boy swam faster than any 7 in the class.

① other students

② other student

③ time

④ another

問3 I don't understand what you are saying. It doesn't make any 8 .

① good

② meaning

③ sense

④ idea

問 4 Our children are all looking forward  a trip to Hokkaido.

- ① to go                      ② to going                      ③ to go on                      ④ to going on

問 5  I see him, he greets me with smile.

- ① Like                      ② Whichever                      ③ Always                      ④ Every time

問 6 His careless behavior  blame for what happened in the classroom yesterday.

- ① is                      ② is to                      ③ is to be                      ④ has been

問 7 She is an excellent speaker; she is  to none in giving a talk.

- ① first                      ② best                      ③ next                      ④ second

問 8 The hospital waiting room was full  sick people.

- ① to                      ② with                      ③ of                      ④ from

問 9 Her family moved to Australia  to get her to receive better education.

- ① as                      ② in order                      ③ due                      ④ according

問 10 We neither agree  disagree with the city's plan.

- ① and                      ② or                      ③ nor                      ④ not

**3**

次の問い (問 1 ~ 5) の下線部①~④のうち、誤りが一箇所ある。誤りをさがし、番号で答えよ。

問 1 ① Known ② that the place is dangerous ③ to travel, I will choose somewhere ④ safe.

問 2 It doesn't ① matter ② which you come with me ③ or ④ not.

問3 We are ① short ② in milk, ③ so we need to buy ④ some.

18

問4 ① A ② large crowd ③ gathering ④ in the street outside.

19

問5 If I ① have known ② that you were coming, I ③ would ④ have cancelled my appointment.

20

4

次の問い（問1～5）において、日本文の意味に合うようにそれぞれ下の①～⑤の語句を並べ替えて空所をおぎない、最も適当な文を完成させよ。ただし、文頭に来るべき語も小文字で示してある。解答は ～ に入れるものの番号のみを答えよ。

問1 あまりに退屈すぎて眠ってしまった。

I was ( ) (  ) ( ) (  ) ( ) asleep.

① I                      ② that                      ③ fell                      ④ bored                      ⑤ so

問2 あなたは自分が達成したことに満足していますか。

Are you ( ) (  ) ( ) (  ) ( ) accomplished?

① have                      ② pleased                      ③ what                      ④ with                      ⑤ you

問3 彼女は1週間ぐらい具合が悪かったようだ。

She ( ) (  ) ( ) (  ) ( ) for about a week.

① been                      ② seems                      ③ have                      ④ sick                      ⑤ to

問4 彼とは付き合いやすい。

He is ( ) (  ) ( ) (  ) ( ) .

① with                      ② along                      ③ to                      ④ easy                      ⑤ get

問5 規則を守ることは言うまでもない。

( ) (  ) ( ) (  ) ( ) we should keep the rules.

① it                      ② goes                      ③ saying                      ④ that                      ⑤ without

5

次の文章を読み、問い（問1～4）に答えよ。なお、\*のついた単語には注がつけてある。

Blood is part of the \*circulatory system. Blood is pumped out from the heart and ( a ) through arteries to all tissues of different organs of the whole human body. Arteries are blood vessels that carry blood away from the heart. On the other hand, veins carry blood toward the heart after the blood releases the oxygen. The circulatory system is very important in ( b ) life. It delivers oxygen and nutrients to all cells. It also removes \*carbon dioxide and waste produced in the tissues. In developed countries, the two ( c ) causes of death are heart attack and stroke which are caused by poor functioning of the circulatory system.

Blood consists of blood cells and plasma. There are 3 types of blood cells: red blood cells, white blood cells, and platelets. Red blood cells carry oxygen. The white blood cells work for the \*immune system to stop infection. The platelets mainly help to stop bleeding.

White blood cells are the biggest, and red blood cells are smaller. Platelets are the smallest. White blood cells have \*nuclei, but red blood cells and platelets do not. Red blood cells are very ( d ) and squeezable, so they can go through the narrow \*capillaries and release oxygen \*molecules at the tissues. Unhealthy red blood cells become hard, and they cannot go through the capillaries. When this happens, there can be medical problems such as stroke and heart attack.

注)

circulatory system: 循環系 carbon dioxide: 二酸化炭素 immune system: 免疫機構

nuclei: 核 capillaries: 毛管 molecules: 分子

問1 文中の (a)、(b)、(c)、(d) に入れるのに最も適当なものを、それぞれ①～④のうちから一つずつ選べ。

- |     |              |                |    |
|-----|--------------|----------------|----|
| (a) | ① stops      | ③ travels      | 31 |
|     | ② sees       | ④ drives       |    |
| (b) | ① obtaining  | ③ spending     | 32 |
|     | ② sustaining | ④ coordinating |    |
| (c) | ① happening  | ③ running      | 33 |
|     | ② opening    | ④ leading      |    |
| (d) | ① fragile    | ③ hard         | 34 |
|     | ② flexible   | ④ visible      |    |

問2 血液の働きとしてあてはまらないものを、下の①～④から一つ選べ。

35

- ① 酸素を運搬する。
- ② 二酸化炭素を産出する。
- ③ 出血を止める。
- ④ 感染を防ぐ。

問3 血液細胞に含まれないものを、下の①～④から一つ選べ。

36

- ① 赤血球
- ② 白血球
- ③ 動脈
- ④ 血小板

問4 本文の内容に合致するものを次の①～⑧の中から三つ選び、番号で答えよ。ただし、解答の順序は問わない。

37 · 38 · 39

- ① 血液は心臓から動脈を通り身体全体に運ばれる。
- ② 静脈は酸素を結合した血液を心臓へ運ぶ。
- ③ 心臓発作や脳卒中は循環系の働きとは関係しない。
- ④ 赤血球は血小板よりも大きい。
- ⑤ 白血球は柔軟性があり、圧縮することもできる。
- ⑥ 健康でない赤血球は柔らかくなる。
- ⑦ 循環系は生命を維持するうえで重要である。
- ⑧ 血小板は核をもつ。